

当面の日程

- 19日 戦争をさせない1000人委員会19日行動 (JR 尼崎)
- 22日 ひょうご分権・自治フォーラム (ひょうご共済)
- 28日 平和の火リレー出発式 (県庁前)
- 28日～29日 県本部現業評議会総会・各分会集会 (いこいの村はりま)



全日本自治団体労働組合 兵庫県本部

〒650-0004 神戸市中央区中山手通3-4-8 大東ビル TEL078-392-0820 FAX 078-392-0920
http://www.jichiro-hyogo.jp/ E-mail:jhyogo@jichiro-hyogo.jp

県本部中央委員会

人勸・会計年度の取り組み強化

雇い止め阻止など、たたかいを共有

県本部中央委員会を6月29日に神戸市内で開催し、当面するたたかいは7つの議案を審議し、8人の中央委員が政治闘争や会計年度任用職員など発言した。

山下忠之県本部委員長は「人事院勧告に向けた取り」

組み、会計年度任用職員の課題、更に単組の組織強化

拡大の方針を提起する。各単組の職場実態も含め、発言を行い議論していただきたい」とあいさつした。

質疑では加西市職の神戸中央委員が加西市市長選挙、

明石市職の小西中央委員が明石市議選について「推薦候補を当選させることができなかった。総括会議での意見を踏まえ、今後にかしていききたい」と報告。

丹波臨職の田村中央委員は「会計年度で勤続20年以上の組合員に内定が出なかった。結果として再任用となったものの大きな雇用不安を持った。積み残し課題もまだまだ残っており、身勝手な解釈をする当局に粘り強く訴え続けていく」

と報告した。伊丹指の川口中央委員は「年度末の雇い止めでは多くのアドバースとご支援により、撤回させることができた。今後は人事評価のルール作りを協議することとなった」と発言。尼崎社協の青野中央委員は「社協では定年延長のビジョンが示されておらず、ピーク時特例がない。定年延長の方針強化を要請する」と発言。猪名川町職の石田中央委員は「9月の町議選での井戸真樹さんの再選への協力要請。加西クローバー労働の高見中央委員からは「賃金制度に関する課題克服に向け、将来的な展望が見えるように交渉していきたい」とし、また佐用ひまわり労働の木南中央委員からは「会計年度へも人勸引き上げ分が遡及反映されるよう、正規とともに運動を進めていきたい」と発言し、議案は全て賛成多数で可決した。



青野中央委員



神戸中央委員



石田中央委員



田村中央委員



高見中央委員



小西中央委員



木南中央委員



川口中央委員

是正すべき長時間労働

労安委員会活用と意識改革が必要

県本部労働安全衛生委員会は、6月23日に神戸市内で「長時間労働」をテーマ

に、2023労働安全衛生集会を開催した。集会冒頭、県本部を代表して山下忠之委員長は「長時間労働は、心身不調の影響が大きく懸念される。この解消は避けて通れない」とあいさつした。

次に山中一慶事務局次長が集会基調と課題について提起を行い、戎剛県本部副委員長から「長時間労働の影響とその是正に向けて」の講演を行った。長時間労働に対する労働組合の役割として「安全衛生委員会の活用」「組合員の意識改革」などの必要性を訴えた。



講演を行う戎副委員長

前回が労働時間、時間外労働について考えましたが、労働時間を考えるうえでもうひとつ大切な視点が、休日出勤や有給休暇の取得についてです。長時間労働が社会問題となり、法的に規制が進む中で、時間外労働を削減していく取り組みとともに、休日や有給休暇にさらに意識的になる必要があります。

週2日の休日ですっきりと心身をリフレッシュすること、そして年間20日の有給休暇を有効利用しながら、私生活や地域活動を充実させることが、より良い仕事(公共サービスの充実)に直結します。まさに「自分良し」「役所良し」「市民良し」の「三方良し」です。仕事を休むことに対する意識を変えていくこと、そして休みやすい職場環境のための人員配置を求めているのであればなりません。

また、有給休暇についても、正規職員は、採用1年目から年間20日が付与されますが、労基法では、採用から6ヶ月間継続勤務して

全労働日の8割出勤すれば10日が付与される(6年半勤めて20日付与)と規定されています。なお、会計年度任用職員について、国の非常勤職員に準じて労基法の最低基準となっている自治体が多くあり、課題となっています。

その他、夏季休暇の付与日数や取得促進、休日出勤の振替や代替休暇についても、多くの自治体で課題が残されたままです。

最後に尾西亮太郎労安推進委員長は「労働安全衛生委員会で課題解決を追求してもらいたい」と集会のまとめを行った。

講演後はグループに分かれて長時間労働の現状や労働活動についての意見交換を行った。

あ、今日も目の前の一つひとつに集中して、楽しみながら片付けていこう。

シリーズ「一歩前へ」③

『休暇をとってリフレッシュ!』 誰のための休み? あなたです!

「休暇をとってリフレッシュ!」

「誰のための休み? あなたです!」

「リフレッシュ!」

「一歩前へ」

「リフレッシュ!」

「一歩前へ」

「リフレッシュ!」

「一歩前へ」

いまいち座

これ以上は無理!



大植 賢 (豊岡市職労)

しこう

人格形成に影響を受けた人物は数多いが、その中でも40数年前に出会い、今も影響を受け続けている人がいる。ドイツの児童文学作家ミヒヤエル・エンデの著作「モモ」の登場人物「ベッポいさん」だ。道路清掃を生業とするベッポいさんが、主人公モモにこんな内容の語りかけをする場面がある。「とても長い道路を受け持った時に、先を見てせかせかと動いても、残りの道路は減っていない。一度に全部のことを考えず、ただ次のことだけを考えていると楽しくなっている。これが大事」。彼のこの言葉が事あること思い出されるのである。元来飽きっぽい性格の自分が、仕事や趣味で粘り強く取り組み続けてこれたのは、彼のこの言葉との出会いのおかげだと感謝している。さあ、今日も目の前の一つひとつに集中して、楽しみながら片付けていこう。

県本部野球大会

神戸交通労組が念願の初優勝

丹波市職労と共に地連大会へ挑む

県本部第43回野球大会1日目が6月17日に県職労西播支部・神戸交通労組・三田市職労・姫路市職・神河町職・新温泉町職労・丹波市職労・西宮水労の8チームが出場し、西宮市内で1回戦と準決勝を開催した。1日目の対戦の結果、神戸交通労組と丹波市職労が決勝へ駒を進めた。



優勝した神戸交通労組



準優勝の丹波市職労

お互い2点を取り合い、5回表に神戸交通労組が1点を追加しリードしたが、その裏に丹波市職労が打線をお互い2点を取り、5対4で神戸交通労組が、前年度優勝の丹波市職労に競り勝った。



市町振興課から回答を引き出す交渉団

6月26日に兵庫県庁において、県本部臨時非常勤等職員評議会の13人が、市町振興課及び教育委員会と①任用更新の一方的な打ち切りによる雇止め②60歳以上の月例給や一時金の引き下げ③人事院勧告による月例給の引き上げに伴う4月遡及の3点の重要項目について、回答を求め交渉を進めた。

市町振興課からは、「すべての市町に調査をかけ、該当する市町へ引き続き総務省通知などを根拠に、適切に粘り強く助言する」との回答を得た。

教育委員会との交渉では、①介助員の学校の離任式への出席の取り扱いが、月給の職員と時給の職員とでは同様の扱いになっていないこと②各市町の図書館で働いている人のほとんどが非正規職員でありながら、正規職員と同様に責任ある仕事を任せられ、人が採用されないため非常に忙しい状態であること③こども園の調理員も含め、振替休日も取得できないという劣悪な職場実態であることを報告し、日本図書館協会からの処遇改善要求などを根拠に職場改善を訴えた。

臨職評対県交渉

法改正に浴した処遇改善を求める

今後現場実態の共有を確認

平和な世界であって欲しい 高校生平和大使が活動報告



第25代大使から報告を受ける

高校生平和大使を支援する兵庫県実行委員会は、6月25日、第4回総会及び第25代・第26代高校生平和大使・サポーター活動報告会をのじぎく会館で開催し、100人が参加した。

1年間の活動報告や感想を交えながら行われ、第25代大使の長富日向さんは「私が思う、平和な世界であって欲しいと活動を進めてきた」と述べた。

32人が交流深める 初のボウリング大会を開催

町職連協は6月25日、姫路青山スポーツガーデンで初めての企画となるボウリング交流会を開催した。

ゲームのトータル点数で順位を競ったのち、ランチ交流会で順位を発表し、1、3位までには景品が贈られた。また市川町は高級玉子、太子町はアロマ効果のあるマッチなど、各町執行部が町の名産を準備し、個人賞として贈呈した。



ボウリングで交流を深める

Advertisement for 'Long-term Mutual Aid' (長期共済) and 'Tax-qualified Pension' (税制適格年金). It features a large graphic showing that paying 100 million yen over 20 years results in 124 million yen. It also includes a testimonial and contact information for 'Autonomous Labor Mutual Aid' (自治労共済).